最近の出来事

余市医師会
森内科胃腸科医院
森（もり）　康明（やすあき）

仁木町は後志の積丹半島の付け根あたりに位置し、高速道路が伸びたおかげで札幌からは車で１時間ほどである。人口約3,000人程度の町で、以前はリンゴ、ブドウ、サクランボ、お米などの農業が中心だったが､その後ミニトマトの生産が盛んになり､最近では隣の余市町とともにワインの生産にも力を入れている。このような土地で、町内１軒しかない開業医として、外来、入院、在宅医療、学校医、産業医、各種健康診断、介護認定審査会委員など行っている。忙しいのはどの医師も同じだと思いながら働いているが、その忙しい中に、時々面白いことに遭遇することがある。

まず一つ目、昨年10月の出来事。往診のため訪れていた一軒家で診察していたところ、コツコツ、コツコツコツと家の中に響くような音が聞こえた。はてな？と思ったけれど、そのまま診察を続けていると、また、同じくコツコツコツと音が響く。患者さんに何の音なんでしょうか、ネズミでもいるのですかね、と尋ねてみると、この時期いつもキツツキが家をつつくんだよとのお話。本当？と思いながらも、すぐに家を出て裏の方に行くと、頭が赤く白黒模様をしたキツツキ（アカゲラ）が一羽いるではないか。今までにも、何回か見たことはあるが、民家をつつくキツツキなど聞いたことがない、なんて趣があることだろうと思い眺めていると、しばらくして飛んで行った。

もう一つ鳥のお話。今年４月の上旬頃、外来で診療中、米農家の患者さんが、今うちの田んぼに白鳥が飛来しているよ、先生こういう話好きでしょうと教えてくれた。ラムサール条約登録湿地の宮島沼でもあるまいし、そんな話は聞いたことがないと思いながらも、数日後その田んぼ方面に往診で向かった時に見てみると、周囲にはたくさん田んぼがあるにもかかわらず、教えてくれた田んぼのあたりだけ、100羽程の白鳥が群れをなしているではないか。よっぽどここの落ち穂がおいしいのだろう。私有地に車を止めて見ていると、教えてくれた患者さんが家から出てきてくれて､先生見に来てくれたんだね､どうぞどうぞ中まで入って見てくださいと言ってくださった。好意に甘えてスマホ片手に見に行くと、コーコーコーと鳴きながら田んぼをついばんだり、羽を広げたりする白鳥を間近で観察することができた。同行していた師長さん、運転手さんに聞いてみたが仁木町に白鳥が飛来しているところを初めて見たと言っていた。この後、息子を連れて何回か見に行ったが、ほどなくしていなくなっていた。また、シベリアに戻ったのだろう。後日、この農家さんに聞いてみると白鳥が飛来するようになったのは10年程前からで、最初は10数羽程度だったのが徐々に増えてきて今年は今までで一番多いとのこと。

キツツキがつつく家の住人も白鳥が飛来する農家さんもおおらかな方で、家が傷むとか田んぼが荒れるとか特に気にする様子もない。

北海道に住んでいると、ヒグマによる被害、エゾシカ、アライグマ（これは外来種だが）による食害、キタキツネ、野鳥などによる感染症など、野生動物との関わり方、距離感は難しい。ただ、この自然豊かな状態を次世代にも残しておく努力はしなければならないと思っている。

キツツキ１

キツツキ２

白鳥１

白鳥２